

令和 5 年度

# 「運営に関する計画」

最終反省（案）

大阪市立佃中学校

令和 6 年 2 月

## 大阪市立佃中学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

学力・体力の向において、チャレンジテスト・チャレンジテスト plus では、大阪府・大阪市平均を大きく上回る教科もあり、学力は向上しつつある。全国体力・運動能力、運動等習慣調査では、男女とも全国平均を上回る種目が多く、着実に体力の向上が見られる。

保護者、地域の協力と教職員の日々の地道な実践の積み重ねで、生徒の規範意識は高く、落ち着いた環境で学校教育活動に取り組めている。一方で、不登校生徒の増加が本校の課題であり、保護者、関係諸機関と連携を取り、模索しながら個々の生徒に寄り添う指導に努めている。生徒の豊かな心の育成のためにも、学校教育活動を通じ、人を思いやる心など自尊感情をさらに高めたい。

**中期目標****【安全・安心な教育の推進】****基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現**

1. 令和 7 年度末の校内調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を、85%以上にする。
2. 毎年度末の校内調査において、不登校生徒の割合を、毎年、前年度より減少させる。
3. 毎年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を、前年度より増加させる。
4. 令和 7 年度末の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え方行動できた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、90%以上にする。

**基本的な方向 2 豊かな心の育成**

5. 令和 7 年度末の校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、71%以上にする。
6. 令和 7 年度末の校内調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、71%以上にする。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】****基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上**

1. 令和 7 年度の校内調査の「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的に答える生徒の割合を 35% 以上にする。
2. 令和 7 年度中学校チャレンジテストの平均正答率 2 割以下の生徒を、いずれの学年も令和 3 年度よりも 5 ポイント減少させる。
3. 令和 7 年度の大阪市英語学力調査の中学校卒業段階での C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を、70%以上にする。

### 基本的な方向 5 健やかな体の育成

4. 令和 7 年度の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 70% 以上にする。
5. 令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和 3 年度より 0.1 ポイント向上させる。（※全国平均を 1 とした割合）
6. 規則正しい生活を身に付けている生徒の割合（「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」）それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合を令和 7 年度調査において 80% 以上にする。

### **【学びを支える教育環境の充実】**

#### 基本的な方向 6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

1. 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「1・2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどの ICT 機器をどの程度使いましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を 80% 以上にする。

#### 基本的な方向 7 人材確保・育成としなやかな組織づくり

2. 学校閉庁日については、夏季休業期間中は 3 日以上、夏季休業期間以外の休業時間においては 1 日以上設定する。

#### 基本的な方向 8 生涯学習の支援

3. 令和 7 年度末の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、76.5% 以上にする。

#### 基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進

4. 令和 7 年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、令和 3 年度より 10 ポイント増加させる。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### **【安全・安心な教育の推進】**

#### 全市共通目標 最重要目標 1

1. 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いませんか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を **83% 以上** にする。

2. 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度（6.68）より減少させる。

3. 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒（33 人）の改善の割合を増加させる。

※前年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の①～③に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握

※改善とは、次の状態の場合をいう。（複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。）

①出席日数の増 学校内外で I C T 等を活用した学習活動をすることによる出席認定含む

② I C T の活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。

③養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。

### **学校園の年度目標**

4. 令和5年度末の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え方行動できた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、80%以上にする。
5. 令和5年度末の校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、65%以上にする。
6. 令和5年度末の校内調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、65%以上にする。

### **【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

#### **全市共通目標 最重要目標2**

1. 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を **33%**以上にする。
2. 中学生チャレンジテストにおける国語および数学 の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。
3. 大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を 60 %以上にする。
4. 年度末の校内調査における「運動 体を動かす遊びを含む やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を **53%**以上にする。

### **学校園の年度目標**

5. 令和5年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和4年度（男子：39.58 女子：45.65）より 0.05 ポイント向上させる。（※全国平均を 1 とした割合）
6. 規則正しい生活を身に付けている生徒の割合（「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合）を令和5年度調査において 75%以上にする。
7. 中学校チャレンジテスト・チャレンジテスト plus の理科の平均点を、大阪市平均以上にする。

### **【学びを支える教育環境の充実】**

#### **全市共通目標 最重要目標3**

1. I C T の活用に関する目標  
協働学習支援ツールを用いた学習を週 1 回以上実施する。
2. 教職員の働き方改革に関する目標  
学校閉庁日を夏季休業期間中は 4 日以上、冬季休業期間は 1 日以上設定する。

### **学校園の年度目標**

3. 令和5年度末の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、60%以上にする。
4. 令和5年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、前年度より 2 ポイント増加させる。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### 【安全・安心な教育の推進】

##### 全市共通目標

すべての年度目標において、おおむね指標を上回っている。（「年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析」欄参照）次年度は、現在行っている生徒への働きかけや組織的対応を改善し、さらなる向上を目指す。

##### 学校園の年度目標

4、5の年度目標において、おおむね指標を上回っている。（「年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析」欄参照）次年度は、現在行っている生徒への働きかけや組織的対応を改善し、さらなる向上を目指す。

6の年度目標において、指標を若干下回った。（「年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析」欄参照）本年度の取組を検証し問題点や改善点を共通認識して、次年度は個々の生徒の状況に応じた指導をより丁寧に行っていく。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

##### 全市共通目標・学校園の年度目標

すべての年度目標において、おおむね指標を上回っている。（「年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析」欄参照）次年度は、現在行っている生徒への働きかけを改善し、さらなる向上を目指す。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

##### 全市共通目標

1、2の年度目標において、おおむね指標を上回っている。（「年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析」欄参照）次年度は、現在行っている取り組みを検討し改善して、さらなる向上を目指す。

##### 学校園の年度目標

3の年度目標において、指標を上回っている。（「年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析」欄参照）次年度は、現在行っている取り組みを検討し改善して、さらなる向上を目指す。

3の年度目標において、指標を若干下回った。（「年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析」欄参照）本年度の取組を検証し問題点や改善点を共通認識して、次年度は指標を上回るよう計画的に取り組みを実践していく。

## 大阪市立佃中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p><b>全市共通目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合 <b>83%以上</b>にする。</li> <li>年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度(6.68)より減少させる。</li> <li>年度末の校内調査において、前年度不登校生徒(33人)の改善の割合を増加させる。</li> </ol> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>令和5年度末の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え方行動できた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、75%以上にする。</li> <li>令和5年度末の校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、65%以上にする。</li> <li>令和5年度末の校内調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、65%以上にする。</li> </ol>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p><b>取組内容1 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>命や人権の尊さを授業や性教育、様々な行事や取組を通じて、自尊感情を高めるとともに他者も大切できる集団づくりに努める。</li> </ul>	A
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度末の校内調査において、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」項目に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を <b>83%以上</b>にする。</li> </ul>	
<p><b>取組内容2 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門的な関係諸機関と連携し、生徒一人ひとりに合った対応を検討し、不登校生徒を減少させる。</li> </ul>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前年度より、不登校生徒の出席日数を増やし、学校とつながる回数を増やす。</li> </ul>	

<p><b>取組内容3【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スクールカウンセラー、SSW、子サポと連携し、不登校生徒が安心し、継続して登校できる環境づくりに努める。</li> </ul>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前年度不登校の生徒が、登校できるようになる生徒数を、昨年度より増やす。</li> </ul>	
<p><b>取組内容4【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が主体となる避難訓練を年間2回実施する。</li> <li>生徒会が全校生徒に対して、身近な地域の防災教育を行う。</li> </ul>	A
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度末の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え方行動できた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、75%以上にする。</li> </ul>	
<p><b>取組内容5【基本的な方向2 豊かな心の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業、学校行事、部活動において達成感をもてるような声かけを含めた取組を実践する。</li> </ul>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度末の校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的な回答を65%以上にする。</li> </ul>	
<p><b>取組内容6【基本的な方向2 豊かな心の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特活、道徳、総合的な学習において、夢や目標につながるきっかけになるような活動を実施する。</li> </ul>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度末の校内調査の「将来の夢や目標を持ってますか」の項目について、肯定的な回答を65%以上にする。</li> </ul>	
<p><b>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</b></p>	
<p><b>取組内容1について</b></p> <p>いじめアンケートを毎学期末に実施、相談機能の周知、全クラスで教育相談等、いじめの早期発見と対応に努めた。トラブルの未然防止策として、関係諸機関と連携し、各学年で非行防止教室、スマホ安全教室の実施をした。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」の項目に対して、肯定的な回答をする生徒の割合は95.8%だった。</p> <p><b>取組内容2、3について</b></p> <p>スクリーニング会議を定期的に実施し、区役所、SSW、SC等と密に連携し、一人ひとりの課題に応じての対応を検討している。現在、サテライト（2年1名 3年1名）、自立アシスト（3年4名 1年1名）を活用している。不登校生の割合は前年度10.2%から今年度5.9%に減少している。同一母集団においても2年生は5.3%から4%、3年生は10.6%から9%に減少している。</p> <p><b>取組内容4について</b></p> <p>全校生徒の防災意識と自己肯定感の向上を目的として、6月に避難訓練を実施し、阪神・淡路大震災の復興について、生徒会が発表し、「はるかのひまわりの活動」に参加した。1月の避難訓練では、各クラスの委員長が主体となり、避難とともに防災かるたの取組を実施した。「災</p>	

害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え方行動できた」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合は 97.5% だった。

#### 取組内容 5 について

一泊移住、修学旅行、体育大会、文化発表会等の学校行事を実施した。それぞれの取組ごとに、実行委員を募り、一人ひとりが責任感をもち、役割を成し遂げ自己肯定感の向上に努めた。

「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的な回答は、79.1% だった。

#### 取組内容 6 について

1年生で職業講話、2年生で職業体験、3年生では進路学習と系統立ててキャリア教育を実施した。将来の夢や目標を持っていますか」の項目について肯定的な回答の割合は 64.2% だった。

#### 次年度への改善点

不登校の課題は、学年が上がるにつれ、集団に不適応を感じることで増加する傾向がある。今後も、いじめの課題とともに一人一人に対し、それぞれの課題に合った対応を学校だけではなく関係諸機関とも連携して検討していく。防災教育についても、リーダー層の育成を含めて実施していく。今後は、消防署だけではなく、区役所、地域とも連携して取組を推進していく。

## 大阪市立佃中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標</b></p> <p>1. 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を <b>33%以上</b> にする。</p> <p>2. 中学生チャレンジテストにおける国語及び数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。</p> <p>3. 大阪市英語学力調査における C E F R A1 レベル相当以上の英語力を有する中学校3年生の割合（4技能）を、60%以上にする。</p> <p>4. 令和5年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を <b>53%以上</b> にする。</p> <p><b>学校園の年度目標</b></p> <p>5. 令和5年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和4年度（男子：39.58 女子：45.65）より 0.05 ポイント向上させる。（※全国平均を 1 とした割合）</p> <p>6. 規則正しい生活を身に付けている生徒の割合（「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合）を令和5年度末の校内調査において 75%以上 にする。</p> <p>7. 中学校チャレンジテスト・チャレンジテスト plus の社会・理科において、大阪市平均以上にする。</p>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容1 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活全般（道徳・各教科、学級活動や委員会活動）において、ペアやグループで話し合う活動を可能な限り取り入れ、自分の意見を述べ、他人の意見をしっかりと聞く機会を作る。</li> </ul> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を <b>33%以上</b> にする。</li> </ul>	<b>B</b>

<p><b>取組内容2【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語では、ICTを積極的に活用し、数学では、チームティーチング・分割授業・習熟度別授業を状況に応じて行うことで、基礎の定着と学力向上を図る。</li> </ul>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度の中学生チャレンジテストにおける国語及び数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。</li> </ul>	
<p><b>取組内容3【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語においては、ICTの積極的な活用のほか、チームティーチング・分割授業・習熟度別授業を状況に応じて行うことで、基礎の定着と学力向上を図る。</li> </ul>	A
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度の大阪市英語学力調査におけるCEFRA1レベル相当以上の英語力を有する中学校3年生の割合（4技能）を、60%以上にする。</li> </ul>	
<p><b>取組内容4【基本的な方向5 健やかな体の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育科を中心に、体育的行事も含め授業を充実させ、運動に対する興味関心を高める。</li> </ul>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を <b>53%</b>以上にする。</li> </ul>	
<p><b>取組内容5【基本的な方向5 健やかな体の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育科の授業（体育的行事を含む）を通して体力全般を高め、特に課題である全身持久力、筋力及び筋持久力の記録を向上させる。</li> </ul>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和4年度（男子：39.58 女子：45.65）より0.05ポイント向上させる。（※全国平均を1とした割合）</li> </ul>	B
<p><b>取組内容6【基本的な方向5 健やかな体の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心身ともに健康であるためには、規則正しい生活習慣を送ることが大切であるため、よりよい生活習慣の確立に向けて、生徒が自ら自分の健康課題に気づき、改善しようとする力を身に着けられるよう指導する。</li> </ul>	B
<p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育や「ほけんだより」などで規則正しい生活をすることが大切であることを知らせ、令和5年度末の校内調査において、朝食を食べることに対し、また、規則正しい就寝時間・起床時間に対し、肯定的な回答をそれぞれ75%以上にする。</li> </ul>	
<p><b>取組内容7【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上基本的な方向】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会ではICTを積極的に活用する。理科では、可能な限り複数の教員で指導に入り、実験・観察のサポートをし、興味関心を高められるように努める。また、演習問題の時間を確保し、より理解を深められるようにする。</li> </ul>	A

## 指標

- ・令和5年度の中学校チャレンジテスト・チャレンジテスト plus の社会・理科において、大阪市平均以上にする。

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

### 取組内容1について

学校生活全般（道徳・各教科、学級活動や生徒会・委員会活動）において、生徒主体の話し合い活動を可能な限り取り入れた。「話し合い→実践」の流れの中で、生徒が自分の意見を述べ、他の意見をしっかりと聞くということが、それぞれの自己決定能力の向上につながったと考える。

### 取組内容2について

数学科では、全学年でTTを実施し、一人一人の学力に応じた指導を行うことができた。また定期的に補習を実施することで基礎学力の向上を図った。3年生ではチャレンジテストにおいて成果が見られた。昨年度は府平均を2.5ポイント下回っていたが、今年度は2.7ポイント上回った。国語科では、適宜ICTを活用し、理解を深められるようにした。チャレンジテストでは府平均を2.1ポイント上回った。また昨年度より平均が1.2ポイント上回った。

### 取組内容3について

英語科において、CEFL A1レベルを有する3年生の割合は67.8%であり、目標を達成した。ICTを積極的に取り入れ、授業だけでなく家庭学習においてもタブレットを用いた調べ学習や音読学習・反復練習を実践した。すべての学年でTTを実施し、生徒の習熟度に応じて個々に関わり、フォローしていくことで、基礎基本の定着を図ったことで結果につながった。

### 取組内容4、5について

体育科において、運動に対する興味・関心を高める授業を研究し実践した。校内アンケートでも54.9%が運動・スポーツが好きと回答している。また全国調査の体力合計点は男子42.06、女子48.11と前年度を大きく上回っている。

### 取組内容6について

全学年を対象に行ったアンケートの結果、朝食を食べることに対し肯定的な回答は79.6%、起床時間に対しては88.6%、就寝時間は77.4%とすべて目標を上回った。塾等の習い事が就寝時間に影響していることが考えられるが、今後も十分な睡眠と朝食を食べることの大切さを伝え、目標の数値を目指していきたい。

### 取組内容7について

理科ではTTを実施した。理科・社会ともにICTを用いた授業を展開した。チャレンジテストでは府平均を理科で7.4ポイント、社会で5.0ポイント上回った。

## 次年度への改善点

取組内容1については、協働的な学習についての効果的な指導や教材を工夫し、引き継ぎ、話し合い活動を意図的に設定していく。また、話し合いの中で自分の考えがどのようにかわったか、どのように学んだかを振り返る機会も大切にしていく。

取組内容2については、数学科では、TTだけでなく、分割授業や習熟度別授業を積極的に実施していきたい。今年度以上にICTを活用し、学力向上を図る。国語科においても引き継ぎICTを活用し、主体的・対話的な活動を取り入れていく。取組内容3については、英語科

では学力向上に向けた個に応じた指導と計画的に習熟度別授業を充実させる。

取組内容4、5については、日々の補強運動の量を増加させることで、日常の運動量を確保させる。また体育的行事の内容を充実させ、生徒間交流を増加させることで、運動に対する肯定的な印象を持つことができるようとする。

取組内容6については、今後も「ほけんだより」「食育通信」での啓発や生徒保健委員会の取り組みを充実させ、規則正しい生活習慣を確立できるようにする。

取組内容7については、授業アンケートの「ＩＣＴを効果的に活用できたか」という質問項目に肯定的な回答をした生徒の割合は56.1%であり、今後も授業の中で1人1台端末を活用することで、ＩＣＴの効果的活用を促していきたい。

(様式 2)

大阪市立佃中学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p><b>全市共通目標(中学校)</b></p> <p>1. ICT の活用に関する目標 協働学習支援ツールを用いた学習を週 1 回以上実施する。</p> <p>2. 教職員の働き方改革に関する目標 学校閉庁日を夏季休業期間中は 4 日以上、冬季休業期間は 1 日以上設定する。</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>3. 令和 5 年度末の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、60% 以上にする。</p> <p>4. 令和 5 年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、前年度より 2 ポイント増加させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容 1 【基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</b> ICT 委員会を中心に、教員向けの校内 ICT 研修を実施し、Google Workspace や Chromebook を活用した学習活動を推進する。</p> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協働学習支援ツールや学習者用端末を用いた学習活動を週 1 回以上実施する。</li> </ul>	B
<p><b>取組内容 2 【基本的な方向 7 人材確保・育成としなやかな組織づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT 機器を活用して、成績処理、提出書類等事務作業の効率化を進め、SSS の協力により印刷業務等の効率化を図り、業務時間の短縮を推進する。</li> </ul> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校閉庁日を夏季休業期間中は 4 日以上、冬季休業期間は 1 日以上設定する。</li> </ul>	B
<p><b>取組内容 3 【基本的な方向 8 生涯学習の支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒にとって魅力ある本が読める環境を作り、学級文庫などを設置し、朝の読書の時間を充実させる。</li> </ul> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 5 年度末の校内調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、60% 以上にする (好き : 28.7%、どちらかといえど好き : 29.3%)</li> </ul>	B
<b>取組内容 4 【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</b>	

ホームページなどで地域や家庭に、学校生活や行事などの活動や成果を発信していく。

B

#### 指標

- 令和5年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、前年度より2ポイント増加させる。

#### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

##### 取組内容1について

ICT委員会を中心に、教員向けの校内ICT研修を実施し、Google WorkspaceやChromebookを活用した学習方法を教員間で共有することができた。また、各授業や学級の連絡、特活の取り組み等で端末を積極的に行える校内体制づくりを進めた結果、校内調査において「PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の項目で、ほぼ毎日使用しているが56.4%、週3回以上使用しているが30.3%であった。

##### 取組内容2について

学校閉庁日を夏季休業期間中に5日、夏季休業期間以外に2日（冬季休業期間中）設定した。

##### 取組内容3について

全学年で朝読書に取り組み、読書の木を通じて読書を促す活動を行った。また、学級文庫の設置や文化委員が図書館便りを定期的に発行した。令和5年度末の校内調査の「読書が好きですか」項目において肯定的に答える生徒の割合が、昨年度よりも3ポイント増加した。

##### 取組内容4について

ホームページ、学年通信等で地域や家庭に、学校生活や行事などの活動や成果を発信したが、肯定的に答える保護者の割合は前年度と同様で、2ポイント増加させることができなかった。

#### 次年度への改善点

取組内容1については、令和7年度の目標である、全国学力・学習状況調査の「1・2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使いましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を80%以上にすることに向けて、ICT教育の推進をより進めていきたい。

取組内容2については、次年度も継続して、ICT機器の活用やスクールサポートスタッフの協力体制を進め、効率化を図り、業務時間の短縮を推進していく。

取組内容3については、前年度の反省より、読書嫌いな生徒への働きかけを重点的に行うことでの肯定的に答える生徒の割合が増加した。次年度も継続して本年度と同様の取り組みを推進していく。

取組内容4については、地域が課題ととらえている防災活動に学校として積極的にかかわることで肯定的にとらえる保護者の割合を増やしていきたい。

## 令和 5 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立佃中学校学校協議会

## 1 総括についての評価

全体的に目標を達成できているのはいいことである。

不登校生の問題は佃中学校だけではなく、全国的な問題であり、地域としても協力できることがあれば改善できるように協力したい。

## 2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

## 年度目標：【安全・安心な教育の推進】

## 全市共通目標

1. 目標指数 83% アンケート結果 95.8% 達成
- 2・3. 不登校生の割合は昨年度 10.2%から 5.9%に減少している。 達成

## 学校の年度目標

- 4・5. 6月に火災 1月に地震・津波について避難訓練を実施した。  
1月に発生した能登半島沖地震の直後であったため自身にも起こりうることと考え行動する生徒が多かった。 達成
6. 目標指数 65% アンケート結果 64.2% 概ね達成

## 年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

## 全市共通目標

1. 目標指数 33% アンケート結果 42% 達成
2. 目標指数 1 ポイント向上 国語 2.1 ポイント、数学 2.7 ポイント上回った。
3. 目標指数 60% 結果 67.8% 達成
4. 目標指数 53% アンケート結果 54.9%

## 学校の年度目標

5. 目標指数 昨年度比較 0.05 ポイント向上 男子 42.06 女子 48.11  
(昨年度男子 39.58 女子 45.65) 達成
6. 目標指数 75% 朝食 79.6% 起床 88.6% 就寝 77.4% 達成

## 年度目標：【学びを支える教育環境の充実】

## 全市共通目標

1. 目標指数 50% 毎日使用している 56.4% 達成
2. 夏季休業中 5 日、冬季休業中 2 日設定した。 達成

## 学校の年度目標

3. 目標指数 60% アンケート結果 58% (昨年度 53%) 概ね達成
4. 目標指数 昨年度比較 2 ポイント向上 昨年度と同数 概ね達成

### 3 今後の学校園の運営についての意見

生徒の地域行事への参加、地域の学校行事の参加など地域連携ができる機会を増やしたい。  
特に防災に関しては、中学生が防災リーダーとして行動できるような取り組みになるよう期待している。